

病棟における 摂食嚥下訓練について

西棟回復期リハビリテーション病棟

看護副師長 坪本 佐江子

摂食嚥下障害とは

回復期リハビリテーション病棟は、急性期病棟での治療が終わり、寝たきり防止と在宅復帰に向けて、日常生活動作能力を高められるようリハビリを効果的に行う病棟です。西棟回復期病棟の病床数は56床ですが、そのうち半数は脳出血や脳梗塞などの脳血管疾患の患者さまが入院しています。

脳血管障害や脳外傷などで脳に損傷が生じた場合、現れる症状は損傷が生じた部位により異なりますが、摂食嚥下障害をきたす原因疾患の約40%が、脳血管障害であるといわれています。

摂食嚥下とは、食物が認知されてから口腔へ運ばれ、咀嚼して飲み込みやすい形態にして嚥下する過程をいいます。その過程は①先行期（認知期）：食物の認知・口への取り込み、②準備期（咀嚼期）：口腔への取り込み、咀嚼、食塊の形成、③口腔期：舌根部・咽頭への送り込み、④咽頭期：咽頭の通過、食道への送り込み、⑤食道期：食道への通過の5つに分かれています。

摂食嚥下障害の症状は障害によって異なります。そのため摂食嚥下訓練は嚥下過程のどこに、どのような症状があり問題があるのかを把握し、その症状に合わせた訓練を行い早期に経口摂取をめざしたアプローチが重要です。



多職種協働での摂食嚥下訓練

当病棟では、経口摂取確立に向け、摂食嚥下訓練パスを用いて摂食嚥下訓練を実施しています。摂食嚥下訓練には、間接訓練と直接訓練があります。

間接訓練とは、食物を用いずに運動や刺激を加え、機能の改善や動作の獲得をめざす訓練であり、直接訓練とは、実際の食物を用い一連の摂食動作を通じて訓練を行うことです。

摂食嚥下障害により経鼻胃管や胃瘻などを使っての経管栄養を主栄養としている患者さまが当病棟に入院・転入した場合、主治医の指示のもと言語聴覚士によって間接・直接訓練が行われます。

その後看護師による直接訓練移行の際に、摂食嚥下訓練開始基準に従い直接訓練移行の評価を行います。評価は①摂食嚥下訓練パス開始要件に当てはまるかどうか②言語聴覚士による嚥下訓練の様子はどうかの2点を確認します。

評価で摂食嚥下訓練はまだ不可とされた場合は、言語聴覚士による間接訓練や直接訓練に合わせて、看護師が間接嚥下練習記録表を用いて訓練、適宜評価します。

→2ページにつづく

評価により摂食嚥下訓練が可となれば、開始時期は主治医・看護師・言語聴覚士の多職種で検討します。摂食嚥下訓練開始にあたり摂食嚥下訓練パスに基づき、看護師・言語聴覚士等が多職種で開始前評価を行います。その評価では、①食事摂取を想定し適切な姿勢が保てるかどうか姿勢の確認、②適切な時間姿勢の維持ができるか耐久性の確認を行います。評価により必要に応じて食事摂取が可能な状態になるよう理学療法士や作業療法士と相談し工夫・配慮を行います。また、③口腔内の状態（歯・義歯・舌・歯茎の状態）を観察します。必要に応じて医師に相談し歯科受診を検討します。

摂食嚥下訓練の食事として、当院では練習食A、練習食B、練習食C、練習食Dがあります。（右下の写真参照）通常は練習食Aから開始していきますが、言語聴覚士による直接訓練での状態により開始する食事形態を検討します。

摂食嚥下訓練では昼食時に看護師が患者さまをマンツーマンで対応し、摂食嚥下訓練記録表を用いて摂食状況・嚥下の状態を観察・評価します。摂食嚥下訓練記録表を用いることで、日々訓練する看護師が替わってもその患者さまの摂食嚥下の注意点や介助方法を把握することができ、統一した介入が行えます。摂食嚥下訓練評価は3日毎に行います。3日毎に評価をすることで課題や問題点を把握し易く安全に食事

形態を変更していくことができます。

退院に向けての取り組み

退院に向け摂食嚥下訓練だけでなく、食事環境の整備、水分摂取・服薬の実施、経鼻胃管抜去の検討、自己摂取援助、家族への食事介助指導、姿勢の維持調整、自助具の使用・検討・調整、口腔ケア、間接訓練など看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の多職種で連携し経口摂取への移行を確立していきます。

「口から食べること」はただ単に栄養摂取ができるということだけでなく、食べる楽しみや満足感、さらには生きる喜び・意欲となり、日常生活動作（ADL）・生活の質（QOL）の向上へと繋がります。

今後も多職種協働で1人でも多くの患者さまが「口から食べること」ができるよう努めていきます。

練習食A（ゼリー・豆腐）



練習食B（全粥・豆腐）



練習食C（ミキサー食）



練習食D（ムース食）



8月の食事会のお知らせ

『夏を乗り切ろう!』
～夏バテ予防は食事から～

- 日時：平成30年8月3日（金）
12:00～講演会
12:30～食事会
- 場所：新館6階 講堂

- ・香味ご飯
- ・モロヘイヤのスープ
- ・夏野菜のオープンオムレツ
- ・冬瓜のはちみつあんかけ
- ・フルーツ

熱量 408kcal
蛋白質 18.5g
食物繊維 4.0g
塩分 2.0g

7月の食事会より
『麺をおいしく食べよう』
～薄味でも大満足！減塩のコツを知ろう～



- ・七夕そうめん 熱量 405kcal
- ・アジの南蛮漬 蛋白質 23.8g
- ・茄子のそぼろあんかけ 食物繊維 4.2g
- ・キラキラフルーツポンチ 塩分 2.1g

担当 管理栄養士 三田

参加ご希望の方は病院受付にお申し込みください。 会費 500円 定員 65名です。

認知症疾患医療センターからのお知らせ

『高齢者等身元特定支援サービス』 の事前登録制度の協力事業所になりました

高齢者等身元特定支援サービスとは

認知症などで行先がわからなくなる恐れのある人の手のひら静脈データを、身元を特定するための情報と一緒に、予め登録しておき、検索活動等により所在が判明し保護されたときの身元特定を、手のひら静脈認証により支援します。

検索願いが提出されていない状態で保護された場合でも、早期にご家族への連絡が可能となります。



ハイビスカス 花言葉:輝き
撮影者:松原信子様

● サービスの流れ



● 警察と自治体の連携

群馬県内でのサービス導入においては、群馬県警と各自治体との協定に基づき実施している「高齢者等の事前登録制度」と連携し、県警のすべての警察署で静脈照合を行えるようになっています。それにより、夜間、休日でも身元照合が可能となっています。

※老年病研究所附属病院認知症疾患医療センターは協力事業所として連携しています。

● 静脈の登録、照合に使用する端末（タブレットと静脈センサー）



- 老年病研究所附属病院認知症疾患医療センターに設置され、登録できます。
- 登録をご希望の方は認知症疾患医療センターまでお越しくください！（西棟1階）

受付時間

午前8:30~11:30まで / 午後1:30~4:00まで (土曜の受付は11:00まで)

※急患は24時間受付けております
※禁煙外来は初診のみで再診は内科外来で行います

外来診療表

第2・第4土曜日休診
※歯科口腔外科は第2・4土曜も診察しています

平成30年7月1日

診療科目	曜日	月	火	水	木	金	土
	時間帯						
内科	午前	高玉院長・長嶺	高玉院長・長嶺	高玉院長・勝山	高玉院長 勝山・下田	高玉院長 勝山・長嶺	高玉院長(10:30まで) 勝山・長嶺
	午後				下田		
神経内科	午前	岡本・菊池	岡本・甘利	岡本・甘利	岡本・酒井	岡本・池田	菊池
	午後	清水	清水	梶原	甘利(14:00まで) 梶原・漆田	池田(15:30まで)	
脳神経外科	午前	1診:内藤 2診:岩井	高玉 真	1診:内藤 2診:高玉 真	1診:内藤 2診:岩井	1診:宮本 2診:内藤	1診:高玉 真 2診:宮本
	午後		岩井(14:30まで)	岩井(14:30まで)			
整形外科	午前	佐藤(圭)・加藤	島田	佐藤(圭)・館野	佐藤(圭)(10:30まで) 加藤	館野・島田	佐藤(圭)(第1)、島田(第1,5) 館野(第3,5)、加藤(第3)
	午後	加藤		館野		島田	
眼科	午前	高玉 篤	高玉 篤	高玉 篤	高玉 篤	高玉 篤・遠藤	高玉 篤
	午後		高玉 篤	高玉 篤(隔週)	高玉 篤		
歯科・口腔外科	午前	福士・戸谷	福士・戸谷	福士・戸谷	福士・戸谷・伊達	福士・戸谷	福士(第1,3,5) 戸谷(第2,4)
	午後	福士・戸谷	茂木・福士・戸谷		福士・戸谷・伊達	福士	
皮膚科	午前	渋沢	渋沢			渋沢	
	午後			渋沢			
糖尿病外来	午前		中村(保)				中村(保)
	午後					中村(保)	
泌尿器外来	午前	矢嶋		一ノ瀬		黒川	
	午後	矢嶋					
心療内科	午前		雪竹				
	午後		雪竹				
高血圧外来	午前	中村(哲)	中村(哲)				
麻酔科	午前	増田		増田(10:30まで)		佐藤(美)	
漢方外来(内科)	午前				古川		
循環器内科	午前		天野	天野	天野	天野	天野
循環器内科(不整脈外来)	午前						田村
内視鏡	午前			山田(第2,4)	古川(胃・大腸)	乾(胃)	
禁煙外来	午前			勝山(完全予約制)	勝山(完全予約制)	勝山(完全予約制)	
リハビリテーション科	午後				神宮		
物忘れ外来(神経内科)	午後			山口(完全予約制)			
睡眠時無呼吸外来	午後					前野(月2回) (完全予約制)	
腎臓リウマチ内科	午後		大石(第1,3)				

公益財団法人 老年病研究所附属病院

〒371-0847 群馬県前橋市大友町3-26-8 TEL 027-253-3311(代表) FAX 027-252-7575(代表)
E-mail: info@ronenbyo.or.jp ホームページアドレス http://www.ronenbyo.or.jp/

地域医療福祉連携室・相談室

TEL 027-253-4108 FAX 027-253-4135